

午後1時30分頃でした。サクラソウの花を次々と尋ねて回る1頭の小型のチョウを見つけました。ただちにカメラを手にして近づくと、そこにサクラソウの花に止まって蜜を吸っているミヤマセセリがいました。ミヤマセセリは1個の花に6秒から12秒かけて蜜を吸うと、20センチメートルから60センチメートル離れた花に飛び移り、全部で16個の花を尋ねて飛び去りました。これは、ミヤマセセリを見つけてからの記録なので、それ以前に尋ねた花の数はわかりません。花から花へと飛び回るミヤマセセリを追って、やっと1枚だけ証拠写真を撮ることができました。ミヤマセセリの写真を撮り終えて顔を上げたときです。目の前に突然トラマルハナバチが現れてサクラソウの花に止まり、次々に花をめくり始めました。トラマルハナバチはサクラソウの花に止まると、その重みで花ごと垂れ下がって花の間に姿が隠れてしまうので、証拠写真を撮るのに苦労しました。しばらくするとトラマルハナバチは空高く飛んで、そのまま西側斜面の樹冠の上を飛び去って行きました。飛んできて飛び去るまでの時間は約6分間でした。飛び去った方をあぜんとして見送っていたところ、1頭のキタテハが目の前を横切ったので、あわててその姿を目で追いました。キタテハは谷間を右に左に飛び回っていましたが、やがて少し離れたサクラソウ群落の中に降り立って姿を消しました。そのキタテハが何をしているのか確かめようと近づくと、パッと飛び立って少し離れたサクラソウ群落の中に降りて再び姿が見えなくなりました。このようなことを幾度か繰り返して、キタテハがサクラソウの花に止まって蜜を吸っている姿を確認することができました。さっそく証拠写真を撮ろうとカメラを構えながら近づいている時です。ひらひらっと飛んできた小型の黒いチョウがカメラの前のサクラソウの花に止まったのです。ダイミョウセセリでした。止まるとすぐに吻を伸ばし、頭部の先まで花筒に入れて蜜を吸い始め、そのままじっと動きません。この証拠写真はすぐに撮ることができました。ダイミョウセセリは1個の花に12秒から18秒かけて蜜を集め、近くの4個の花をめぐるどとスッスーと飛び去って行きました。次にキタテハの証拠写真を撮ろうと、先程確認しておいた場所を探したのですが、そこに姿はありませんでした。その後、スジグロシロチョウがヒラヒラ飛ぶのを見ましたが、その

まま飛び去ってしまいました。次々に飛んできたチョウも午後2時を過ぎたころから、ぱったり姿を見せなくなり、再び退屈でゆったりとした時間が流れて行きました。

午後2時35分になったとき、トラマルハナバチが再び姿を現しました。前回現れてから55分たっていました。そして、前回と同じようにせっせとサクラソウの花をめぐる蜜を集めると、また西側の斜面を飛び越えて去って行きました。さらに55分後の午後3時30分にもトラマルハナバチは現れ、同じようにして飛び去って行きました。あまりにも正確に55分ごとに飛んでくるので、本当に驚いてしまいました。マルハナバチは飛んでくると、上向きに咲いているサクラソウの花に近づき、ホバリングしながら吻を伸ばして、ゆっくりとサクラソウの花に止まって足場を決めると、ただちに吻をサクラソウの花筒の中に入れます。すると、サクラソウの花はトラマルハナバチの重みで垂れ下がってしまうので、トラマルハナバチはサクラソウの花を抱えるようにして踏み止まりながら蜜を吸い続けます。蜜を吸い終るとすぐ近くの花に飛び移って、同じようにして蜜を吸います。こうして、近くの花を次々に訪れるのですが、ときどき急に離れたサクラソウ群落に飛び移って、そこで再び同じことを繰り返します。1個の花に8秒から12秒かけて蜜を吸い、6分間から10分間滞在して50個から60個の花をめぐるどと飛び去って行きました。調査は午後4時頃に終りにしました。

この日の調査で、サクラソウの訪花昆虫として確認できたのは、チョウの仲間のテングチョウ・キタテハ・ダイミョウセセリ・ミヤマセセリの4種と、ミツバチの仲間のトラマルハナバチが1種の、合計5種でした。そして、午前10時から午後4時までの調査時間の中で、チョウの仲間がサクラソウの花を訪れたのを確認できたのは、午後1時から午後2時までの1時間だけでした。トラマルハナバチについては、サクラソウの花を訪れたのを最初に確認したのは午後1時40分でした。その後は55分間隔で現れていましたが、午後4時に調査を終ったので、その後の事はわかりません。

最後に、現地を案内してくださった新里村教育委員会の職員の方々に、厚く感謝いたします。

(浦和市文化財保護審議会委員)

## ツマキチョウも田島ケ原サクラソウ自生地で サクラソウの蜜を吸っていた

磯田 洋二

サクラソウの花は、昆虫に花粉を運んでもらって実を結ぶ仕組みになっています。田島ケ原ではサクラソウの花にくる昆虫に、めったに出会えないのですが、しかし、サクラソウはよく実を結んでいます。私は、「サクラソウの花粉を運んでいる昆虫がいるのに気づいていないのかも知れな

い」と考えて、田島ケ原でサクラソウの花から蜜を吸っている昆虫を探しては、その証拠写真を撮っています。

サクラソウの開花最盛期（花盛りの時期）になった田島ケ原では、アゲハチョウ、キアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウ、キチョ





サクラソウの花から蜜を吸う雌のツマキチョウ  
(田島ケ原 2000年4月18日 磯田洋二撮影)

ウ、キタテハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ヒメウラナミ  
ジャノメ、イチモンジセセリ、ギンイチモンジセセリを見  
ることができます。

去年(平成11年)はキタテハとモンキチョウの2種類につ  
いて、サクラソウの花から蜜を吸っているようすを観察で  
きたので、その証拠写真を添えて紹介しました。今年(平  
成12年)はキタテハとモンキチョウに加えて、ツマキチョ  
ウがサクラソウの花から蜜を吸っているのを観察できたの  
で、そのようすを証拠写真を添えて紹介します。

ツマキチョウの吸蜜行動(蜜を吸う時の動き)を観察で  
きたのは2000年4月18日のことです。今年は暖冬でしたが  
3月に入ると寒い日が続き、サクラソウの開花最盛期はい  
つもより1週間ほど遅れていました。この日は、サク  
ラソウ群落の植生調査のために田島ケ原に来ていた  
が、サクラソウ群落のあたりに、キタテハ・モンシロチョ  
ウ・ギンイチモンジセセリなどが活発に飛んでいるのが見  
えたので、調査の合間を利用してサクラソウの花に来る昆  
虫を探すことにしました。日中は晴れて暖かく、風がなく  
て穏やかでした。

第一自生地の東寄りにあるサクラソウの大群落のあたり  
に、2頭の白い中型のチョウが飛んでいて、ときどきサク  
ラソウ群落の中に姿が見えなくなります。このような飛び  
方から、サクラソウの花に蜜を吸いに来ているのではない  
かと思い、急いで近づいて行きました。飛んでいたチョウ  
が降り立ったサクラソウ群落のあたりを探すと、1頭の雌  
のツマキチョウが羽を半開きにしてサクラソウの花に止ま  
っているを見つけました。時計を見ると2時40分でした。  
ツマキチョウは吻を花筒に差し込み、頭部を花筒に押し込  
むようにして蜜を吸っています。じっとしているので、さ  
っそく証拠写真を撮りました。ツマキチョウは、この花の  
蜜を吸い終るとすぐ近くの花に移って蜜を吸い続け、おな  
じようにして3センチメートルから10センチメートル離れ  
た3個の花を訪れると、急に飛び立って約3メートル離れ

たサクラソウ群落に移り、そこで近くの6個の花を訪れて  
蜜を吸い、再び急に飛び立って約2メートル離れたサク  
ラソウ群落に移り、そこでもまた近くの6個の花の蜜を吸  
うと、急に飛び立ってそのまま遠くへ行ってしまいました。  
ツマキチョウが蜜を吸うために1個の花に止まっていた時  
間は10秒から30秒で、この場所に滞在していた時間は約7  
分でした。それに、気付いた事ですが、ツマキチョウが蜜を  
吸うために訪れたサクラソウは、サクラソウの大群落では  
なくて、その近くにある数株の小群落だったことです。な  
ぜか理由はわかりませんが、興味を引いたので紹介してお  
きます。もう1頭の白い中型のチョウも雌のツマキチョウ  
でしたが、それ以外のことは調べられませんでした。なお、  
毎年のことですが、田島ケ原ではこの時期になると、ツマ  
キチョウの飛んでいるのを普通に見ることができます。

(浦和市文化財保護審議会委員)



花筒に頭部を押し込んで蜜を吸うツマキチョウ  
(田島ケ原 2000年4月18日 磯田洋二撮影)



さくらそう通信

平成13年3月21日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796



題字 教育長 浅見 匡